

恩 荷

第22号

2023年(令和5年)

11月24日

題字 小玉啓太郎

ONGA

男鹿市退職校長会会報

教職1年目の貴重な経験

男鹿市退職校長会副会長 村木康子



私の教員としての初任地は横浜市西部の藤が丘という所でした。この年の4月に開校した各学年6クラス、全校児童千人以上のマンモス校でした。全校集会は体育館に入きれないので、グラウンドで行っていました。

【余談になりますが、1977年9月、グラウンドで運動会を行っていた時、横浜市荏田の公園に米軍機が墜落し、幼い兄弟を含め3名の方が亡くなり、数名の方が負傷するという大事故がありました。今でもグラウンドから見えた墜落時の黒い煙を鮮明に覚えています】

初めての担任は3年生40数

名でした。この人数なので、

5月の連休明けの家庭訪問までに全員の子どもの特徴を把握するのに難儀していました。

クラスにA君という子どもが在籍していました。学習面では特に問題はなく、上手に指導すればリーダーになれそうな子どもでした。しかし、

些細な事で度々友達とトラブルをおこし、その都度個別指導をしていました。が、トラブルは一向に減りません。そこで、家庭訪問をして、お母さんから家庭での様子を聞いたり、3人で解決策を考えたりしました。3人兄弟の次男、お母さんも少々手を焼いている様子が伝わってきました。

何回目かの家庭訪問時に、

ちよつと立ち入ってしまうかなと思いつつも、お母さんに『お父さんは?』と聞いてみました。すると『父親は仕事で忙しくて帰りが遅く、子どもたちという時間がなかなかとれなくて』と話してくれました。

もしかしたら、ここに原因の一端があるかもしれないと思いつつも、お母さんに『お父さんも忙しいことと思いますが、少しでも早く帰宅できる日を作ってもらえないか、お伝えください』とお願いました。それから、2、3カ月経った頃からA君の様子に少しずつ変化が見えてきました。友

達とのトラブルが減り、落ち着いて学校生活を送ることができるようになってきたのです。その事をお母さんに伝えたとところ『父親ができるだけ早く帰宅し、子どもたちとの時間をもちようになりました』と話してくれました。

それだけで?、ちよつと信じられなかったのですが、明らかにA君は変わりました。クラスの仲間と良好な関係を築いていきました。

私自身の経験を含め、子育てに正解はないと思います。この事例は、家族、特に親の子育てに対する考え方・取り組み方、そして子どもへの接し方を意識することにより、子どもの気持ちは安定し、落ち着いた生活を送ることができるようになったというものでした。

この経験は、教職1年目の私にとって貴重なものとなりました。そして、その後の教員生活に大いに役立ちました。



総会・研修会

男鹿市退職校長会総会・研修会

総会概要

コロナ禍の影響で2年振りの開催となった退職校長会総会・研修会は、4月28日(金)に男鹿市民ふれあいプラザ「ハートピア」で行われた。参加者は来賓・会員を含めて22名であった。また、懇親会も4年振りに16名が参加し、道の駅おが「オガール」のレストランで開かれた。

● 総会の議事内容

- (1) 令和4年度会計監査と決算承認
 - (2) 令和5年度事業計画及び予算案 審議
 - (3) 会則・慶弔規定改正案審議
 - (4) 本会創立50周年事業案審議
- (1)～(2)は協議を通して提案通り承認された。(3)では会則に緊急時や不測の事態発生時の議決に関する条項を付加等。(4)では次年度総会後の記念講演会の開催や「男鹿市退職校長会のあゆみ」の発刊、創立50周年に寄せた寄稿を掲載した記念の会報「恩荷」の発行が提案され承認を得た。

研修会要旨

研修会は、株式会社おが(道の駅おが・なまはげの里オガール)代表取締役の鈴木剛氏が「多くの出会いに感謝」と題して講演を行った。



(1) 若気の至り

昭和50年、若美町役場に採用。教育委員会で公民館に配属され、青少年教育と図書館の担当となる。ある時、町内の先生方が全員集まる場で、児童の放課後指導の一環として行っていたサッカー指導等について話す機会があった。その話の中で迂闊にも先生方の気持ちを逆なでする発言をしてしまい、後に生意気な職員とのレッテルを張られたことがあった。このことは若気の至りとして謝罪したい気持ちで一杯である。

(2) 善政は善教に如かず

昭和51年、訪ソ青年の船に参加した。団長は小畑勇二郎県知事であ

った。知事は私たち団員にとっても優しく細やかな配慮のある方であった。その後の毎年開かれた親交会にも参加してくれていた。一方、秘書や職員にはとても厳しく鋭い眼差しに変わることがあり、凄いい人だなと感じたことがあった。知事は生涯教育推進本部を立ち上げ、自ら本部長に就任した。会合では「良い政治を司るならば、教育を根底に据えた人づくりが何よりである」とよく話されていて大変感銘を受けた。

(3) 白酒で迎え白酒で送る

平成10年、若美町の教育長は小坂孝彦氏であった。彼は中国の南昌大学で日本語教師として4年間教壇に立たれていた。その小坂教育長に同行して南昌大学を訪れたことがあった。

南昌大学の学生は大変勤勉であった。学生寮の消灯後、多くの学生で図書館に入れない学生が明かりの漏れる窓の外で勉強する姿は今でも脛に焼き付いている。

南昌大学では白酒で大歓迎を受け、帰国する際にも白酒を土産に持たされた。中国は客人の送迎を大切にすると感じた。

(4) ダメ元がスタート

メロンマラソン大会が第30回記念大会の年。有名選手を招待することになり、現役のオリンピック選手であった川内優輝選手を推薦した。周囲に無理と言われる中、川内選手に手紙を書き、直接訪問して本人の意思確認を得て参加してもらった経緯がある。

また、男鹿市若美町合併5周年記念講演に、幼馴染であるトヨタ自動車の嵯峨宏英専務を講師に推薦した。やはり無理だと言われる中、本社や本人と何回も連絡を取ることで実現することができた。

(5) オガールとは

オガールは総合観光案内所でありながら、物産館でもあり道の駅でもある。道の駅は24時間開いており、トイレだけではなくシャワーも利用することができる。直売所の出品登録者は、農産76名、水産50名、加工119名、工芸28名である。社員は25名で、社員には直売出品物の品物を絶対に切らないよう話している。そして、社員に常に意識改革を求め、地域に開かれ、地域から求められ、地域と共に歩むオガールを目指している。

新 会 員 か ら

退職して半年が過ぎ...

加藤 和彦



今春3月に37年間の教員生活を無事終えることができました。在職中は退職する自分を全くイメージすることなく過ごしてきたものの、さすがにラスト2、3年では意識するようになっていた自分を懐かしく思い出しています。また、清々しい気持ちで退職を迎えたいと考えていましたが、現在様々な重圧から解放され、自由気ままに過ごせる時間を堪能できていることに、誰に言うともなく感謝しているところです。

4月からの新生活で、たっぷりある時間を埋めてくれたのはスポーツでした。大リーグでの大谷選手を筆頭とする日本人選手の活躍、バスケットやバレー、ラグビーW杯等での日本チームの躍進や選手たちの躍動する姿に一喜一憂しながら大きな刺激を受けたものです。その影響か、自分自身も運動する機会が増えることとなり体調面はすこぶる良好となっています。

この9月より男鹿市スポーツ協会事務局にお世話になっております。総合運動公園にお越しの際はぜひお声掛けください。

日常そのものが変化

三浦 喜博



7月の豪雨では、男鹿市内でも浸水や土砂崩れ等がありました。被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

かつて、大学の卒業論文を書くために自宅近くに転倒ます雨量計を設置し、1年間降水量の実測を行いました。このとき、1時間雨量で30ミリメートルを超えたのは、1回しかありませんでした。「観測史上初」の気温や降水量が連発する今年の状況はやはり異常とは思えません。

定年前から、自宅横の畑で野菜や花を育てるのがライフワークとなっています。いつまでたっても素人で、よく妻からは、「買った方が安い」とも言われます。畑の滞在時間が長くなると、野生動物の増加に驚かされます。作業している横を、タヌキやカモシカが悠然と通り過ぎることも珍しくありません。あるとき、ガサガサという物音に振り返ると、裏山の急斜面をカモシカの親子が駆け落ちてきたこともありました。付近ではクマの出没情報も相次いでおり、遭遇だけは避けたいと思っています。

周りの景色と途中下車

戸田 信彦



定年退職して半年が過ぎました。今までと違う生活リズムに慣れるには、まだ時間がかかりそうです。退職後は周りの景色をじっくり味わい、途中下車できる鈍行列車のような生活を楽しみたいと思っています。今は週2回教育に関わる仕事に携わり、残りの時間を今までできなかったことにチャレンジしたり、家族のことに費やしたりしています。この半年は何かと忙しく、余裕のない日々でした。そのため、部屋の段ボールもまだそのままだ状態です。

教職でやり残したことも多く、課題が山積するなかで退職を迎えました。学校や子どもに関するニュース、子どもの声には自然に体が反応します。1日も早く、働き方改革など教員の処遇や労働条件が改善され、すべての子どもたちが毎日充実した学校生活を送ることができることを願っています。周りの景色と途中下車を楽しみながら、今までお世話になった方々に何らかの恩返しができるように、これからの時間を有効に活用していきたいと思っています。



新会員から

万事塞翁が馬で：

一 関 隆 則



まあ、なんとかなるさと、体力の衰えを深刻に考えず、気力は程々にあるから大丈夫だろうと希望した再任用でしたが、少々考えが甘かったようです。

4月、初めての勤務校で教務となつて、勝手が分からない中で些細なことに時間がかかつて悪戦苦闘。さらに、部活動の主担当となり、結局7月まで時間外勤務時間が毎月百時間を超えました。働き方改革に逆行し、体重が4か月で7kg減り、人生初めて円形脱毛症にもなりました。夏休みでようやく一息つきましたが、もうハードな勤務に耐える体力は持ち合わせていないのだと実感した今年度前半でした。

それでも部活動では、屈託のないキャプテンを中心に部員が意欲的に練習に取り組み、充実した時間を過ごしました。また、夏休みは鳥取・島根へ旅行し、念願だった出雲大社への参拝を達成しました。それなりに還暦後の時間を過ごしています。来年度以降については考え中ですが、管理職のときよりは「教師やってるな」と思います。

民間企業での学び

船 木 和 則



今春、35年の教員生活に終止符を打ちました。在職中から「定年になったら民間企業に行く」と、心に決めていましたので、今はその夢が叶ったというところでしようか。

首都圏の企業数社からお声をかけていただきましたが、私の専門である「海運業」という分野を選び働いています。幸いなことに秋田の支店で顧問として、基本週3日出勤、残り2日は在宅で勤務しています。時折必要に応じて本社や県外へ出張している状況です。

教員時代によく言われていた「報・連・相」は、民間では当たり前に実践されており、社内の打合せや出張報告はじめ社員の動向、どこの部署がいま何をしているのかなど、オンライン上ですべて把握できます。ペーパーものは全くありません。優秀な同僚に囲まれ、毎日新たなことに気づかされながら、充実した日々を送っています。

男鹿のため、秋田のためにもうひと頑張りたいと思っています。

会員の交流広場

◆ 男鹿市北浦 三浦 豊彦

最近、かつて楽しんだナンバープレースに時々挑戦している。単なる数字並べにすぎないけれど、中級5段で目標タイムが28分と表示されている。

だいたい20分程度で達成したいが、数題やっている内に思わぬ時間の経過。時間がもったいないと思いつつも、ボケ防止の1つと割り切って手当てしている。

◆ 男鹿市船川港 武田 直

老化が身体のおちこちに出てきています。その中でも物忘れが特にひどく気になります。次に足、特に膝の痛みが出てきています。朝起きると、今日の予定を考えます。することが決まると安心するというか、若い頃には考えないことが気になっている今日この頃です。

◆ 男鹿市船越 遠藤 康子



会員の交流広場

◆男鹿市船川港 三浦 正光

令和に入って両手で収まらないほど親しい先輩・友人が鬼籍に入られた。在りし日の薫陶や切磋琢磨した時間がよみがえり痛惜の念に落涙。

人の一生は「生老病死」と言われている。私はすでに「病」の域に入って久しい。日々の膝や腰の痛み・血圧等の数値の変化に一喜一憂している。晩年の幸せとは、日常の喜怒哀楽をいかに穏やかに織りなすかと言うことではないだろうか。

最近では体の痛みと数値の変化にうまく折り合いをつけながら、月2回のグラウンドゴルフを楽しんでいる。

◆男鹿市船川港 今津谷 勉

去る7月8日、コロナウィルスの予防接種をしたにもかかわらず、24日感染してしまった。発熱、咳、鼻水、味覚障害などの症状が出て、体がだるく体力が奪われた。感染は他人事だと思っていたが、実際に罹患するとショックだった。病院で処方された薬を忠実に飲むと1週間で症状が治まった。

この体験で改めて健康体のありがたさを知った次第である。

◆男鹿市払戸 木元 正子



◆男鹿市角間崎 角崎 紘二

近況報告になります。週2日社会福祉法人男鹿更生会（障害者支援施設・障害福祉サービス事業所）に勤務しています。この様な施設はコロナ対策が本当に大変です。何とか対応してやっています。高齢野球も続けていますが、そろそろ限界かなと思っています。補聴器をつけておりますが、身体の方はまだ大丈夫のようです。最近は下手な短歌をつくって楽しんでいきます。花鳥風月を愛でるひと時を大切にしたい心境です。

◆秋田市飯島 木村 守人

今年度は少子化に伴い非常勤講師の需要がなかったため秋田市北部から南秋までの範囲で家庭教師をしています。大学生以来の経験です。対象は中3から小3まで高

校受験や中学受験を控える子ども、学習に不安を抱える子ども、一時期不登校で学習内容が未履修の子どもなど様々です。微力ではありますが困っている子どもたち一人一人に寄り添い、成長を見守っていききたいと思います。

◆男鹿市鶴木 鈴木 雅彦

ちよつと前に還暦を迎えたと思っていたら、この9月に満65歳となり、世界保健機関が定義する高齢者の仲間入りをしました。渋沢栄一の言葉『四十、五十ははな垂れ小僧 五十、六十は働き盛り 九十になって迎えが来たら百まで待てと追い返せ』からすれば、まだまだ若輩者です。引き続き、ご指導よろしく願います。

◆潟上市天王 小野 久子

ここは男鹿市民文化会館大ホール、各校の子どもたちの発表の場でもあったと、あの頃を思い浮かべていた。久しく入ったことがなかったが、今日の大音響は航空自衛隊北部音楽隊コンサートだった。心に響く音楽で次々と楽しませていただいた感動の時間はあっという間に終わり、たくさんの人々がサーッとどこかへ消えてしまっ

た。まもなく元の静けさに。

どうしたら活動的な文化会館になるのかなあ？男鹿市の皆さんはじめ我々に何ができるのかなあと考えさせられた一時は、寂しきとなってしまった・・・。「ある日の日記より」

◆男鹿市船川港 佐藤 磯男

トラツグミツグミ科

ヒヨドリと同じくらいの大きさですが、本種の方がややずんぐりしています。薄暗い林内に生息し夜に「ヒョー・ヒョー」と寂しげな声で鳴くことが多いので、「鵪（ヌエ）」と呼ばれ土地の人に気味悪がられています。

男鹿では、春に飛来し、秋に飛去する夏鳥でしたが、近年、冬季も生息するようになりました。写真の個体

は1月中旬旬の雪の日、我が家のウメモドキに飛来したときに撮影したものです。





玄友会総会・研修会

玄友会総会及び研修会開催

研修発表「ICTを活用した授業づくりの取り組みについて」

船第一小学校長 佐藤和久氏

10月13日（金）ハートピアで笹瀬学校教育課長を来賓に迎え、現職校長を含む本会会員20名が出席して4年振りに総会が開催された。総会では玄友会前会長佐藤磯男氏の顧問就任の提案がなされ、承認された。

総会終了後
現職校長の佐藤和久氏の研修発表が行われた。



研修発表要旨

1 「研究推進」の現在地

県教委の「ICTを活用した秋田の教育力向上事業」のICTを活用した授業改善支援事業のモデル校指定を受けて3年目である。初年度は授業支援ソフト、電子黒板等が導入され、算数科を中心に活用を図った。昨年度はその活用を広げるため、学習過程「船一スタンダード」を各教科で作成した。また、各学年の情報活用能力育成

の年間指導計画を作成した。11月には公開研究会を行っている。今年度はより使い勝手の良いクラウド版授業支援ソフトを導入した。また、各教科等で学習過程「船一スタンダード」の改定に取り組んでいる。そして、11月には公開研究会を予定している。

2 これまでの研究の成果と課題

学習過程「船一スタンダード」と教科毎のICTの活用の仕方を作成したことで、教員の意識改革につながり、児童も学び方を覚え、主体的な学習への意識が高まった。児童は協働的な学びで、自らタブレット上で自分と友達の考えを比較・検討するようになってきた。教員も児童も学習内容によってICTを効果的に活用できるようになってきた。また、ICTだけに頼らずに、自分に合った方法で理解を深める姿も見られた。

個の学びで問題を発見し、協働的な学びで問題を解決して再度個に返すことで、学びを深めることができた教科もある。しかし、そ

これまで至らない教科もあり、学習過程の見直しが必要である。

協働的な学びを効果的に進めるため、全学年でICTの活用方法をさらに検討していく必要がある。

3 学校経営と「研究推進」

ICTを活用した授業づくりは先進的な取り組みであり、職員には理論的な部分は押さえつつ、失敗を恐れずに研究推進を図るよう伝えている。

情報活用教育は全教科の基盤となる資質・能力の一つであり、21世紀型能力の基礎力の中にも情報スキルが位置付けられている。しかし、授業の狙いはあくまでも各教科等の特質に応じた資質・能力をつけることであり、このことは職員で共通理解を図っている。

ICTを活用して児童がしっかりとした力を付けるためには、何より教師の確かな授業力が必要であることを職員と確認している。再任用の研究主任を核とする研究組織で研究を行っているが、次期リーダーも見据えながら声をかけ、その育成に努めている。

*: ICTは(Information and Communication Technology)の略で「情報通信技術」と訳される。インターネットを活用した情報共有を実現する技術の総称。

会員のご逝去

塚田 秀明氏

(令和4年8月27日)

原田 孝明氏

(令和4年12月8日)

小玉啓太郎氏

(令和4年12月14日)

小松 一夫氏

(令和4年12月25日)

大堤与三郎氏

(令和5年3月29日)

渡邊 登氏

(令和5年8月7日)

心よりご冥福をお祈りします

グラウンドゴルフ大会

第11回グラウンドゴルフ大会が6月26日(月)に大潟村多目的広場で開催された。会員11名が参加し、4コース32ホールで熱戦を繰り広げた。

大会結果 (数字は打数)

優勝 伊藤 章(76)

2位 浅井繁樹(78)

3位 田沼隆夫(79)

4位 三浦豊彦(82)

5位 今津谷 勉(85)

ホールインワン賞(数字は回数)

今津谷勉② 伊藤 章①

最優秀女性賞 小笠原守子

最高齢者賞 天野 実